

## コロナ禍ならではの創意工夫

未だ収束の見通しが見えない新型コロナウイルス感染症。福祉現場では様々な工夫をしながら運営を継続しています。その工夫について、今回は特別養護老人ホーム、デイサービス、児童館の取組を紹介します。

### 取組①

### 「新たな日常 くらしを考える」／西七条特養 井上直美課長

#### 【コロナ前の西七条】

西七条は、以前から地域との結びつきが強く、「七三やさしいまちづくり会議」の開催や「認知症声掛け訓練」を実施しています。学区民体育祭では特養が一町内として参加、「西七条音楽祭」では七条中学吹奏楽部や七三児童館が演奏やダンスを披露するなど交流を深めてきました。となりの西七条保育園は、特養の中庭から園庭が見えるように改築をされ、気軽に園児とご利用者が交流でき、様々な行事も開催されていました。

#### 【コロナ禍での取組】

外部との交流がなくなり、「単調な毎日に新たな刺激や楽しみを」との思いから、開設以来、初めて「クリスマス会」を開催しました。そこでは外国国籍の職員2名と2階、3階の職員2名が得意な楽器の演奏を披露。コロナ前であれば、ご利用者が一堂に会していたのですが、2階、3階それぞれで実施することになりました。ソロ演奏やクリスマスソング、童謡など十数曲の合奏が行われました。



左から高島さん、麻生さん、ユリさん



左から、ホルヘさん、ユリさん

「新年会」では初釜を企画。和菓子とお抹茶を準備しました。このときも各フロアに分かれて職員がお点前を披露。お運び担当は着物を着用、外国国籍の職員も自国の民族服を着て参加しました。ご利用者は、普段見られない職員の演奏する姿や着物姿に目をパチクリさせて「音楽はいいね♪上手だね」「きれいなおベベやなあ」と笑顔をみせてくださり、和やかな年末年始を過ごしていただけました。



左から廣瀬さん、井上課長

#### 【地域との新たなつながり方】

コロナ禍においても、西七条から何らかの発信ができないかと考えていたところ、地域の小学校から3年生の総合学習について相談がありました。そこで「施設を知ってもらい、高齢者が地域の一員であることを認識してもらう」をテーマに、1回目を開催。オンラインで「高齢者施設見学会」を行うこととなりました。今後は、認知症サポーター養成講座などを企画しています。

園芸クラブでは、お正月の寄せ植えや地域の方からいただいた水仙の球根を中庭に植えました。開花したあかつきには、地域の方に鑑賞していただける場所に植え替えを行い、水仙を通じてつながりを持てればと思っています。

様々な規制の中、皆さんが喜ばれることは何だろうか、今自分たちにできることは何だろうかを考え、コロナという大きな禍(わざわい)の中に生きることが、この先の私たちの暮らしに大きな教訓や学びをもたらすことと信じ、ささやかでも幸せを感じられる何か…を見つけながら、西七条職員一丸となって頑張っていきたいです。

## 取組②

## 「しまっいても、じどうかん」／修徳児童館 中野ひかり

修徳児童館では「しまっいても、じどうかん」を合言葉に、コロナ禍でも“いまできること”を考え、行動してきました。

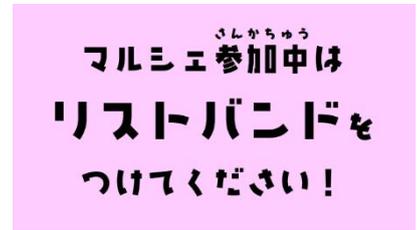
また、どの児童館でも、同様の趣旨のもと、職員が地域に出向く取組をし、いろんな声をキャッチしたり、公園の乳幼児親子に声をかけて一緒に遊んだり、相談を受けたりしています。児童館に来てもらうことができないのなら自ら出ていこうと、4館とも前を向いて動きだしました。



公園が隣接する修徳児童館では、“ドライブスルー”ならぬ、“おさんぼスルー”を開催。同じ場所にとどまらない工夫を凝らしながら、遊びのキットの配布や、その場でできる工作、身長・体重を測るスペース、フォトスポットなども展開する、“しゅうとくセット”の取組をしました。中には、関係機関につなぐケースもありました。また、SNSや動画などの発信ツールを増やし、デジタルとアナログの共存でより幅広く届くように心がけ、イベント

時には受付済の証にリストバンドの着用を試みたところ、わかりやすいと好評でした。

未知のウイルスの恐怖や不安で、なんとなく、もやもやした気持ちや孤独感のようなものを抱えている中、正解がわからず手探り状態でのスタートでしたが、“離れていてもつながっている”“困ったときに利用できる”“児童館はいつもここにある”というメッセージを送り続け、これからもご利用者の想いを大切にしながら進み続けていこうと思っています。



## 取組③

## 紫野と西院をつなげたのは「ピクミン」でした／西院デイ 新道恒一

「紫野でコロナ陽性者が出た！スタッフが足りないらしい!!」と聞いたとき、「私が行かない」と思いました。以前から他施設を見学したい気持ちがあったことに加え、自分の今までの経験を活かし、河本施設長（前西院施設長）のために少しでも助けになればと思い、紫野の応援スタッフに手を挙げました。



井手本さんと記念の一枚

北区は、大学時代に住んでおり、バイクで駆け回っていた懐かしい場所。ただ、紫野の施設に行くのは初めてで、西院よりも規模が大きくてびっくりし、初日は少し緊張していました。

そんな緊張を吹き飛ばした出来事が！2001年に一世を風靡したテレビゲーム「ピクミン」のCM曲「愛のうた」を歌っていたストロベリー・フラワーのボーカルの方が働いていると耳にしてびっくり。好きな曲だったので、そのボーカルである井手本さんと初めて仕事で一緒になったときにはテンションMAX。仕事の最中もさりげなく「歌を聞きたいです」とアピールをしていました。

ある日の業務後に、井手本さんの粋な計らいで、個人的にミニライブ

を開催してくれました。もちろん曲は「愛のうた」。本当にうれしいプレゼントでした。

応援スタッフとしての役割を終えた後のことです。現在、井手本さんと一緒に音楽活動をしている同僚の脇さんが、紫野でコンサートしていると耳にしました。すぐに紫野に連絡し、とんとん拍子でオンラインコンサートを開催することになりました。さらに嬉しい誤算としては、紫野と西院だけをつなぐ予定でしたが、いつの間にか協会全8施設のデイサービスも参加することになりました。当日は、うちわなどのライブグッズを用意してご利用者と一緒に楽しみました。その後も交流が続き、「西院と紫野で、オンラインクイズ大会をしませんか」と提案があり開催しました。コロナ禍で毎日大変なことが多いけれど、コロナ禍だからこそ生まれた今回のいろいろな出来事。

「愛のうた」は、やっぱり最高です♪

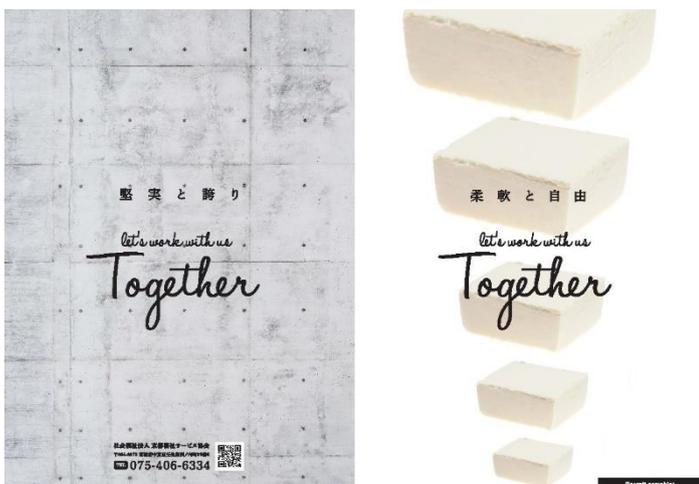


## 新卒採用パンフレット作成 “堅実と誇り” “柔軟と自由”

新卒向け採用パンフレットは、2019 年度にパンフレットを作成して以来、3 年ぶりとなりました。コロナ禍で、採用活動もオンライン化が進んだことにより、法人説明会の実施方法の見直しをはじめ、説明会の内容検討、資料の見直し、遠方の学生との接点ができたことによるオンラインでの選考の仕方等、採用フローの見直しが随時行われていたため、なかなかパンフレット作成に至れなかったのが正直なところです。今年こそは、採用パンフレットを作成しよう！そう考えて進めてきました。これまでの3冊は施設部門のみで作成していましたが、今回は居宅部門と一緒に考え、完成させたことが大きな変化です。

採用パンフレットの作成には、各部門の副本部長をはじめ、採用担当者が主となって話し合いを重ねました。

これまでパンフレット作成で協会が常に大切にしてきたことは、社会福祉法人らしくない、斬新なデザインだったのではないかと思います。いざ作成！となった際にかなりの時間を費やしたのは、コンセプトと表紙のデザイン。協会は、よく“しっかりしている”“堅いイメージ”と言われます。これは、3年前まで京都市の外郭団体であった影響だと感じています。一方で、開かれた施設としての地域とのかかわりをはじめ、法人独自ブランド“sitte”の取組や多種多様な職員がたくさん働いているところ、銅駝美術工芸高等学校とのコラボ、幅広い年齢層への認知症啓発事業等、柔軟な発想を実現させる風土があることも事実です。つまり、“堅実と誇り”を土台に、“柔軟と自由さ”を大切にしていきたい。そんな法人であることを目で訴えるパンフレットということで、今回は堅実さをコンクリートで、柔軟さを豆腐で表現しました。掲示用ポスターには伝えたいことがギュッとつまっています。皆さん、是非ご覧ください。

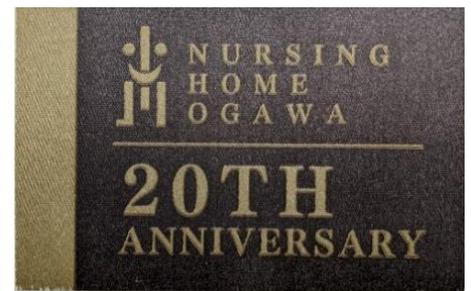


このパンフレットの作成には、たくさんの協会職員に出演してもらいました。協力していただいた皆さん、デザイン事務所ケセラセラさん、本当にありがとうございました。

これから始まる2023年卒の学生に向けた採用活動は、このパンフレットを用いて行われます。いろんな“挑戦”がしたい学生さんにたくさん集まってもらえるように、頑張りたいと思います。

## Anniversary！／小川 20周年

先月号でご紹介した総合福祉施設塔南の園、総合福祉施設修徳の周年記念に続き、高齢者福祉施設小川（以下小川）も20周年を迎えました。コロナ禍ということもあり、記念式典などのイベントは控えることになりましたが、お世話になった皆様に記念品をお届けしました。この20周年事業について小川からの報告です。



左上にはオリジナルの小川のロゴが。

記念式典などのイベントは控えることになりましたが、お世話になった皆様に記念品をお届けしました。この20周年事業について小川からの報告です。

2022年1月10日に小川は開設20周年を迎えました。これもひとえに皆様のご理解、ご協力の賜物ところから感謝しております。番組小学校（1869年、京都の町衆たちの手によって創設された64の小学校。日本で最初の学区制小学校）のひとつである小川小学校の歴史と伝統を受け継いだ施設として、運営を続けてきました。

これまでの「感謝」と、「これからも高齢、障害の枠を超え、誰もがいきいきと暮らせるまち、上京を作りたい！」という思いから、20周年記念品の作成については、小川と同じ地域（上京区）に拠点を置く事業所に協力していただきました。

一つ目の記念品は西陣麦酒。西陣麦酒の運営母体は特定非営利活動法人HEROES（ヒーローズ）。ひとりひとりが、その人の人生の主人公（ヒーロー）であるという理念



を掲げ、関わる全ての人に寄り添い、共に歩み、そして一緒に様々なことを実現することを目指されています。今回は20周年記念ラベルをオリジナルで作成しました。

もう一つの記念品は、「NEW STANDARD CHOCOLATE kyoto by 久遠」のチョコレート。堀川商店街の活性化プロジェクトの一環として開店。プロデュースの依頼が後を絶たない日本屈指のショコラティエが手掛けたこのお店は、障害のある人が社会で生き生きと働ける場です。美しい断面となめらかな口溶けのQUON テリーヌを小川20周年記念パッケージに詰め合わせました。

今はコロナ禍で、地域の方と一緒に祝うことが難しい状況ですが、地域の方からは様々なお心遣いをいただき、いろんな方の支えで、事業を続けられていると実感しています。これからも小川の地域とともに歩んでいきたいと思ひます。

## 福利厚生事業について

京都福祉サービス協会では職員の福利厚生事業の一環として厚生会を設置しています。厚生会は、本部に事務局を置き、会長、副会長と各拠点から選任された運営委員によって構成され、会員の日頃の疲れを少しでも癒せるよう福利厚生の増進を目的に運営しています。

事業内容は、宿泊補助や映画観賞券などが京都福祉サービス協会特価で購入できるベネフィットステーション、給付事業（祝金や見舞金）、サークル助成金、レクレーション事業（親睦会、ボーリング大会、ソフトバレー大会、日帰り旅行等）と幅広く展開しています。

新型コロナウイルスの影響で、残念ながら、人と人が接触するような企画は行えなくなりましたが、昨年3月には「KYOTOFUKUSHISERVICEKYOKAI KOSEIKAI POINT（略してKKP）」を新設しました。KKPとは昨年3月時点の会員に1万ポイント（1万円相当）を付与し、インターネットでポイントに達するまで商品と交換できるサービスです。2万アイテムと豊富な品揃えで、利用した会員からはたいへん好評です。有効期限である3月31日を過ぎるとポイントは消えてしまいますので、是非ご利用ください。

新型コロナウイルスの感染が広がり、人と人との関係が希薄になりがちですが、厚生会では、会員の皆さんが少しでもリフレッシュでき、喜んでいただけるようなサービスを検討していきます。引き続き厚生会事業にご協力いただきますようお願いいたします。

### 厚生会よりお知らせ

## KKP ポイント は(10000 円分)

## 3月末で失効します！

2021年3月までに厚生会加入された方に付与されています。

パソコン、スマホからベネアカウント登録後  
KKP ポイント画面より欲しい商品と交換してください！

URL  
[https://beac.benefitone.inc/bs/bpf/auth/firstlogin/web/login?be\\_service\\_code=BS](https://beac.benefitone.inc/bs/bpf/auth/firstlogin/web/login?be_service_code=BS)

団体 ID : C0001F42R  
認証キー1 : 社員番号(6桁)  
認証キー2 : 109435  
※社員番号が変更になった場合は認証キー2も変更する必要があります。  
※社員番号が6桁に満たない方は、認証キー2を再入力ください。

具体的な手続きについては、各事業所の厚生会運営委員に、児童館の場合は窓口担当者にご確認ください。

## 職場リレー エッセイ④

## THEME / 春を待ち望む 太秦事務所

今回のリレーエッセイのお題は「春を待ち望む」。太秦事務所で「春を待ち望む」と言えば、もうこれしか思いつきません。法人のホームページ内のスマイル Blog や居宅部門のヘルパー広報誌「ばあとなあ」でも紹介をさせていただいていますが、事務所玄関前のプランターです。



事務所内の有志で季節の草花を育てています。これが地域の方々とのおちょっとした交流につながっており、なかなか良いものです。「上手に作ってはんねー」と声をかけてくださったり、高齢のご夫婦が写真を撮られていたり。

黄花コスモスを育てていたときに、女性の方から種を取っておいてほしいと言われました。女性が種を取りに来られたときに、もらう代わりに松葉牡丹の種をくださいました。そこには種蒔きの時期や蒔き方などを記したメモを添えて、4月に蒔こうと張り切っています。

今年は昨年のリベンジを果たさなくてはいけないことがあります。それはチューリップ。昨年、プランター一杯に咲き乱れるチューリップをイメージして球根を植えたのですが、球根の種類が違っていたのか成長がまちまちでイメージとは程遠いものになってしまいました。今年は種類を合わせて年末に願いを込めて植えました。日の当たり方などを考えてプランターの位置を変えたりして、そろって芽吹いてきてくれます。春には咲きそろったチューリップを、地域の方と楽しみたいと思っています。

## 写真展「記憶とつなぐ ある写真家の物語」京都府主催

若年性認知症の当事者である下坂厚さん（西院デイ職員）の認知症発症前から現在までの写真展が開催されます。

日時 開催期間：2022年3月15日（火）～20日（日）  
 入場時間：10時～17時（最終日20日は16時まで）  
 ※入場は30分前まで 入場無料

会場 京都市京セラ美術館 本館北回廊1階（京都市左京区岡崎円勝寺町124）

